

聖書宣教会通信

Japan Bible Seminary Newsletter

No. **195**
2024.3.1

巻頭言
Greeting

×

末松 隆太郎

Ryutaro Suematsu

聖書宣教会 理事長

(栄聖書教会 主任牧師)

Profile

1949年生まれ。1979年聖書神学舎卒、卒業後、米国フラー神学校にて宣教学修士取得。1983年より日本福音キリスト教会連合栄聖書教会主任牧師。2020年より聖書神学舎「宣教学」担当講師。



「地揺れる中で」

今年の始まりは1月1日の能登半島地震、翌日は被災地に早く救援物資を届けようとした海保機とJAL機が滑走路上で衝突、炎上するというショッキングなものでした。揺るがない(と思う)地盤が揺らぐと、人間はどうする事も出来ません。改めて、私たちの人生の揺るがぬ地盤である神を見上げて歩む者とさせていただきたく願います。

「神は われらの避け所 また力。

苦しむとき そこにある強き助け。

それゆえ われらは恐れない。

たとえ地が変わり

山々が揺れ 海のただ中に移るとも。

たとえその水が立ち騒ぎ 泡立っても

その水かさが増し 山々が揺れ動いても。」

詩篇 46 篇 1-3 節

さて、聖書神学舎も土台を揺るがす変化ではないのですが、教憲教規を改訂し、組織図を変更致します。この変化の詳細は今回号の誌面をご覧ください。

通常、学校法人などでは法人が事業を運営する主体となり、教育方針を定め、人事を決め、財務の手当てを行います。教育の現場より、理事長が絶大な権限を握って健全な学校経営の妨げになる事も起こりうるのです。

聖書神学舎は、1989年に校舎を現在地に移す前に「聖書宣教会」という宗教法人格を取得しました。しかし、働きの本体は「聖書宣教会」ではなく、聖書神学舎という神学教育機関です。

宗教法人は他の法人とは違い、事業の展開や運営する主体ではありません。それ故、宗教法人の責任役員会にあたる理事会や、代表役員にあたる理事長が宗教活動上の絶大な権力を持つことはありません。その役割は、「聖書神学舎」(神学教育の主体)の財務上の管理を適切に担う事であり、企業でいえば財産を管理する部門にあたるといえます。この事を明確にするのが、今回の教憲教規の改訂、組織図の変更であります。

「聖書宣教会」(宗教法人)は「聖書神学舎」(神学教育機関)の上部機関ではありませんし、「聖書宣教会」は「聖書神学舎」の別名ではないのです。繰り返しになりますが、あくまでも神学教育の主体と中心は「聖書神学舎」なのです。この区別を明確にするのが、今回の改訂です。

神学生の学びの場は「聖書宣教会」(宗教法人)ではなく、「聖書神学舎」(神学教育機関)であります。細かく言えば、入学式を入会式と呼ぶのは不適切となりましょうか。又「神学舎」からのお知らせも「聖書宣教会通信」ではなく、「聖書神学舎通信」のような名称に戻されることとなります。ただ、この変化は、土台の揺らぐ大地震ではありません。宗教法人法を正しく理解し直した結果であります。今までと同じように神学校の働きは継続されてまいります。引き続き、お祈りとご支援をお願いいたします。

No.195 Topics

- p03-05 教憲教規と組織図について
- p06 学びの窓
- p07 教会音楽専攻委員会から

イエスについて行く

伊藤 暢人

Nobuhito Ito

聖書神学舎 教務主任

イエスは彼らに言われた。「わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしてあげよう。」

マタイ 4 章 19 節

人間をとる漁師に

ガリラヤ湖で投網を打つシモンとアンデレをご覧になった主イエスは、彼らに人生の大きな方向転換を迫りました。魚ではなく人間をとる漁師に。二人は魚をとる腕前は確かなものであったでしょう。しかし人間をとるようになるためには、一つの決定的な生き方の転換を求められました。それは主イエスについて行くこと。

改めて、主イエスのことばが命令と約束からなっていることを覚えます。「わたしについて来なさい。そうすれば、わたしはあなたを人間をとる漁師にする。」主イエスの後について行くこと、キリストに倣うことなくして、人間をとる漁師になることはできません。否、そもそも人間をとる漁師は、「私たちがなる」ものではなく、キリストに従うことの結果、「主がそうしてください」ものです。

私たちの生き方が、生涯を通して主イエスについて行くものとなれるように願われます。教職員、そして研修生たちがその原点を忘れずに歩めますように、引き続きお祈りくださいますようお願い致します。

「聖書神学舎」

学舎は今春教憲教規を改定し、組織図を変更いたします。教師陣やカリキュラムを初め、神学教育の実質が変わるものではありませんが、数年来準備してきた組織上の整備がなされます。呼称が「聖書神学舎」になる(戻る?)など、いつも覚えてくださっている皆様には慣れない

ところもあるかもしれませんが、ご理解とご協力をいただければ幸いです。この通信も次号より「聖書神学舎通信」となります。詳細は3～5ページをご覧ください。

新年度に備えて

さて、今春は3名の卒業生を送り出します。これまで祈り支えてくださった方々、ありがとうございました。そして新年度は本科に2名、聖書科に2名の新生を迎えることになります。送り出してくださる諸教会の上に主の祝福が豊かにありますように。

講師陣に新たに、遠藤芳子師と本多卓也師をお迎えします。遠藤師は、夫君であった遠藤嘉信師がかつて学舎で良き働きをしてくださっていたことをご存知の方も多いでしょう(2007年に召天)。本多師はまだ去年の卒業生ですが、早くも戻って来ていただくことになりました。新しい先生がたの働き、またこれまでと変わらず教鞭をとってくださる先生がたの働きのために、ご支援ください。

新しい働きとしては、「教会音楽講座」が始まります。従来の「教会合唱講座」はコロナ禍で長らく休止していましたが、このたび装いも新たに再出発することにしました。8ページの案内、またウェブサイトをご参照ください。

今年は年明けから大変な始まり方をしました。被災された方々、かの地の卒業生、教会を覚えて、天来の助けと平安をお祈りしています。また、皆様の新しい年度の歩みにもご臨在の恵みが豊かにありますように。

聖書神学舎の教憲教規と組織図について

赤坂 泉

Izumi Akasaka

聖書神学舎 校長

この度、聖書神学舎の教憲教規を改定し、組織図を変更しました。2024年4月に発効します。今後、私どもは基本的には「聖書神学舎」という名称を用います。その経緯や意味を皆様にお知らせします。

□ 歴史

聖書神学舎は1958年に聖書信仰を堅持してみことばに仕える伝道者を養成するために開校した神学教育機関です。1982年に「聖書宣教会」の名称で宗教法人格を取得して財産管理の体制を整え、1989年に杉並区から羽村市の現在地に移転しました。多くの教師たちの献身的な奉仕と諸教会の祈りと支援によって、600人以上の働き人を送り出して今日に至ります。

独立した宗教法人格の取得は大切な一步でしたが、「聖書神学舎」と「聖書宣教会」の関係についての理解が不十分であった面があります。二つの名称が混在して、混乱を来しました。1993年に教会音楽舎が聖書神学舎と併置されると、聖書宣教会がそれらを包括する上位機関であるかのような理解がますます強くなりました。組織図もそのような理解に即して整えられ、私ども自身が「聖書宣教会」という名称を中心に自らを表示してきました。

結果、今では、むしろ聖書宣教会という名称のほうが広く認知されているかも知れません。

けれども、神学教育の主体は、当初から一貫して「聖書神学舎」です。「教会音楽舎」の一定期間の働きも、独立した主体的な働きでした。宗教法人格は財産管理の面でこれらの働きを支えるものです。私どもは宗教法人格の有無に関わらず、主と主の教会から託された働きを続けてきましたし、続けてまいります。

□ 教憲教規

教規の改定作業は、1990年代に着手したものの諸事情で中断したり、大きな方針変更直面したりして、なかなか終わりをみることはありませんでした。ある意味で「後回し」にしてきた面もあり、反省の残るところです。

この度、改めて、継承してきた思想と教規を、「教憲」と「教規」として整理し、整備しました。

最も大切なポイントは宗教法人格の位置です。宗教法人は学舎の財産管理を担う重要な部門として、聖書神学舎の上ではなく、聖書神学舎の中に位置づけることが適切であると整理しました。宗教法人は聖書神学舎が認証を受けて設立したものであって、法人が聖書神学舎を設置するような関係にはないからです。▶

▶ 学舎全体を表す名称は聖書宣教会ではなく聖書神学舎です。

教憲に示した聖書神学舎の目的、使命、信仰基準には、本質的には変更はありません。

教規では、教師会が聖書神学舎の活動主体であることを明記しました。実態を反映したもので、本質的な変化ではありません。但し、予算編成や決算の議決など、教師会の責任範囲が広がる面はあります。

従来の理事会の働きの中には、教会のわざとしての聖書神学舎の働きを支え、推進するという面と、宗教法人の責任役員会としての機能とがありました。これを二つの部門に分けることでそれぞれの使命と権限を明らかにしました。聖書神学舎理事会、聖書神学舎評議員会、聖書神学舎監事を設置して、その方々が、それぞれ宗教法人「聖書宣教会」の責任役員となり、評議員となり、監事となることにしました。「聖書神学舎理事会」は、聖書神学舎が教会のわざとして神学教育を行うことを支え、教師会とともに聖書神学舎の働きを推進する部門です。「宗教法人聖書宣教会責任役員会」は聖書神学舎の法律行為を行う主体としての部門です。この法人の責務と権限は宗教法人規則に示してあります。聖書宣教会の法人規則にも本質的な変更はありませんが、一部、名称の整理等のための手続を進めます。

□ 今後

近年では、「聖書宣教会・聖書神学舎」や「(宗)聖書宣教会 聖書神学舎」という表示を用いてきましたが、今後は、基本的には「聖書神学舎」という名称を用います。「学舎全体を表す名称は聖書神学舎である」ということで、諸教会の皆様にも、ご理解とご協力をお願いいたします。

働きが変化するわけではありません。聖書神学舎教師会が働きの中心にあって、これまで同様に働きを進めてまいります。表示が変わるものもあります。例えば、「聖書宣教会通信」は「聖書神学舎通信」になります。一方、領収書など、財務・財産に関連する部分では「聖書宣教会」の名称も続きます。

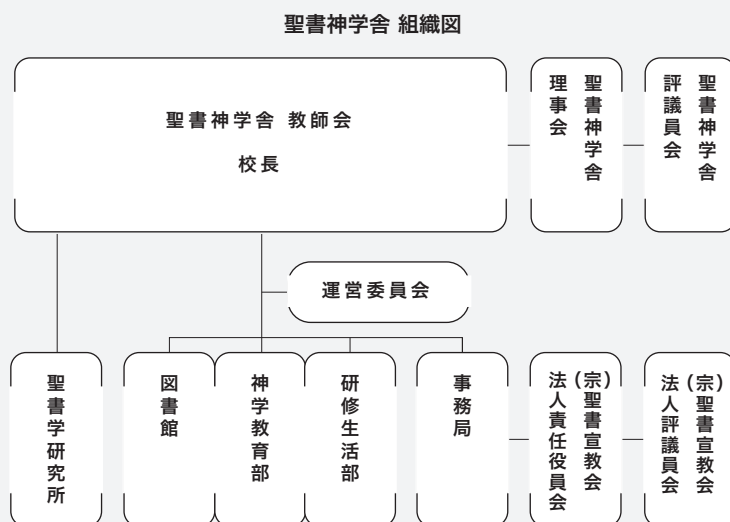
いずれにしても「学舎全体を表す名称は聖書神学舎」ということで、よろしくお願いします。

(なお、一定程度の移行期間中、発行物や書類の中に従来の表記が残る場合があります。)



□ 組織図

こうした思想を次のように組織図に表示しました。



□ FAQ

Q 聖書宣教会という名称は無くなるということですか。

A 宗教法人の名称が聖書宣教会であることに変更はなく、上記の通り、財務関連では聖書宣教会の名称を用います。郵便振替や銀行口座などの名称は従来通りです。けれども、神学教育機関の全体を表す名称は「聖書神学舎」に統一します。

Q 卒業生の呼び方が変わりますか。

A いいえ。「聖書宣教会の卒業生」とであると表現しておられる皆様も、実際には、聖書神学舎本科、聖書神学舎聖書科、聖書神学舎教会音楽科等々の卒業生であり、教会音楽舎の卒業生です。今後は、聖書神学舎(あるいは教会音楽舎)の卒業生であると表現していただけると幸いです。

Q 名称を変更することは新しい混乱を生むのではないのでしょうか。

A 確かに長い時間が経ってしまい、一定の困惑が生じるであろうことを申し訳なく思います。けれども、名称の変更ということではなくて、名称の整理です。宗教法人格の理解に鑑みて重要な整理ですので、ご理解いただき、周知と共有にご協力いただきたく、よろしくお願いします。

Q 新しい教憲教規を見ることができますか。

A 広く公表する性質のものではありませんが、関係者にはご要望に応じることができます。ウェブサイトからメールでご連絡ください。

「後藤寿庵の信仰と私たち」

若井 和生
Kazuo Wakai
聖書神学舎 教師

私が2005年に聖書神学舎を卒業して最初に遣わされたのは、岩手県奥州市の水沢聖書バプテスト教会でした。

水沢は江戸時代には、東北のキリスト教宣教の拠点だったところです。キリシタン領主・後藤寿庵(ごとう・じゅあん)がこの地を治めていたからです。

この後藤寿庵がいまだに地元の人々から慕われていることに驚かされました。それは当時荒野とも称されていた不毛の地に灌漑工事を行い、水路を築いた寿庵の功績があったからです。それだけではありません。寿庵は胆沢川から水を引くために、私財を投じて工事にあたりました。また地域の住民の困窮を救うために、年貢を四割も減らしたそうです。この寿庵の誠実な生き様が、多くの人々に感動を与えているのです。

後藤寿庵の君主は、仙台の伊達政宗でした。やがて三代将軍・徳川家光の治世となり、キリシタン弾圧が日本中で激しくなると、忠実な家臣を失いたくない政宗は、寿庵に棄教を迫ります。その政宗に寿庵は次のように答えました。

「棄教の一事に関する限り肝に銘じて忝なく
かたじけ思う君恩にもかえ難い」

「政宗公の恩義はとてもありがたいが、神の恩ははるかに広大である。御意には従えない」と寿庵は答え、水沢の地から去って行ったのです。信教の自由が問われるギリギリの状況の中、寿庵はこの世の主ではなく、天の主仕える道を選択しました。

江戸時代末期の1859年、リギンズ、ウィリアムズ、ヘボン、ブラウンなどの宣教師たちが次々と日本に到着し、日本におけるプロテスタント宣教が本格的に始まりました。それ以来今日に至るまで、160年以上の時間を刻んでいます。

かつてのキリシタンたちの信仰と比べた時、私たちの信仰に物足りなさを感じてしまうのですが、それはどうしてでしょう。自らの信仰をはっきりと告白するよりも、この世との摩擦とそれに伴う苦しみを避けようとするスタイルが、私たちの体質の一部になっているように感じられるのです。

地上での責任をしっかりと果たしながらも、天の主仕える忠誠を明確にすること。天の故郷を目指しながらも、この世の歩みを軽んじないこと。そんな後藤寿庵に見られる筋の通った骨太の信仰が、この国にはもっともっと必要なのではないかと思います。

そう言えば、水沢出身で世界的ベースボール・プレイヤーになった大谷翔平選手が昨年、一つの名言を残しました。「あこがれるのはやめましょう。あこがれたら超えられない。」

このことばに私も衝撃を受けました。過去の偉大な先人たちの信仰に、あこがれるのはもうやめましょう。うしろのものを忘れ、完全という目標を目指して、ひたすら前に向かって走り続けたいと思います。

「キリスト・イエスにあって…目標を目指して走っているのです。」

ペリピ3章 14節

教会音楽舎に学んで

田辺 百合香

Yurika Tanabe

三浦聖書教会

教会音楽舎を卒業して今年で25年になります。歩みを振り返り、主の憐れみと恵みに感謝します。私は四国の徳島県出身で、大学3年の時に主を信じました。田舎の小教会で奏楽や聖歌隊の奉仕をしていました。様々な種類の音楽が教会の中で用いられましたが、そのことに疑問を持ちました。「みことばを語り、人の霊を養う教会にはそれにふさわしい音楽があるのでは？」と。しかし知識がないのでその疑問を心に秘めて奉仕をしていました。そのような時、友人の薦めで教会音楽夏期講習会に参加し、そこで初めてみことばを土台とした教会音楽に触れました。宗教改革、聖書信仰、それに基づいた賛美。その賛美は人々にみことばを宣教するというのです。

私の疑問に答えが与えられました。それから自分の召命について祈り求め、みことばに促されて1995年春に入会を許されました。

田舎の小教会から東京の超教派の神学校へ。まだ受洗して3年足らず。何も知らず、ただ『音楽でみことばを伝える学びを』という召しだけで飛び込んだのです。大変でした。私も周囲も。神学の

知識はほとんどなし。舟喜信先生に「あなた、本当に何にも知らないんだねえ」としみじみ言われました。知らないので神学の学びは難しくも面白く、舟喜順一先生の授業は、言葉そのものについて考えさせられました。音楽では岳藤豪希先生、照子先生ほかから学びを受けましたが、大学で学んだ事をはるかに上回る難しさ。合唱指揮法、転調法、声楽や初めて触れるパイプオルガンなど。多くの学びと宿題、睡眠不足の日々。同級生たちと共に祈り励まし合いました。裏の多摩川のせせらぎにも癒されました。自身の信仰や召命を度々主に問われながら、音楽によるみことばの宣教への思いを確かにされました。

卒業後は導かれて三浦聖書教会での働きへ。育児中は音楽舎で学んだ事が何も、、、と思いましたがCSのためにみことばの歌を作ったり、小さな聖歌隊を導きました。常に主が知恵を与え、成すべき事を示し祝福してくださいました。これからも土の器であるこの者が主の御栄えを現す者として用いられるように祈ります。

講師の一人として

赤坂 恵美

Emi Akasaka

聖書神学舎 講師

ますます多様化し、相対化する世の価値観の変化に、教会もまた少なからぬ影響を受けているように思います。特に礼拝観や礼拝（教会）音楽観においてその影響力は大きく、危機感を覚えて久しいことです。変わっていいものは何か、変えてはいけないものは何かを、聖書に拠って立つことにより賢く見極めて行く者であるべく、私もみことばと、みことばに根ざした音楽を学び続ける者でありたいと願っています。

2024年度から、これまでの『教会合唱講座』に替えて『教会音楽講座』が始まります。また、夏には『教会音楽夏期講習会』も例年通り開催予定です。どちらにおいても、聖書を学ぶことを中心に据え、みことばに根ざした礼拝音楽をご一緒に考えつつ、実践に備えるものと考えています。理念なき伝統への固執でなく、闇雲に新しさを追求することでもなく、どこまでも神のことばである聖書に向き合うことで、真の教会音楽のあり方を探り、実践して行きたいと願います。

2024 年度 講座案内

2024 Courses and Schedule

2024年度は次のようなプログラム、講座を予定しています。詳細はウェブサイトやそれぞれの案内をご覧ください。このほかに聴講制度があります(詳細は事務局まで)。

拡大教育・継続教育

詳細は開催時期が近づいた頃にウェブサイトでご案内します。

拡大教育

聖書塾 聖書の基礎的な学びの機会。9-11月に1講座(5回)を2つ開催。東京都内、対面で。
聖書神学舎デイ 聖書神学舎を知っていただき、聖書に親しみ、読む喜びを共有する機会。首都圏の教会、対面で。

教会音楽講座 みことばを土台とした教会音楽を学ぶ機会として、新しく開講します。
従来の「教会合唱講座」から内容も対象も拡充して提供するものです。
前・後期各7回、東京聖書教会で。詳しくはウェブサイトをご覧ください。

NEW

継続教育

旧約・新約釈義 2-3月の平日夜120分を4回、オンラインで。原則として聖書神学舎卒業・修了生対象。

第48回 夏期研修講座

「聖書から考える終末」

期間 : 7月 1日(月)～ 3日(水)
会場 : 奥多摩福音の家
対象 : 牧会者、牧会者の配偶者
講師 : 聖書神学舎教師

詳しくはウェブサイトをご覧ください。

第39回 教会音楽夏期講習会

「みことばと音楽」

バッハ モテット「Jesu meine Freude イエスはわが喜び」
ローマ人への手紙8章 1-11 節に聞く

期間: 7月24日(水)～ 26日(金)
会場: 聖書神学舎
対象: 聖歌隊員、聖歌隊指導者、奏楽者、独唱者等、礼拝や教会の諸集会で音楽の奉仕に携わっている方、および奉仕の準備をしたい方。教職者・信徒の方も参加できます。

講師: 聖書神学舎教師・講師ほか
詳しくはウェブサイトをご覧ください。

2024 年度 主要年間予定

2024 School Year

2024

4月 9日(火)	入学式	10月31日(木)～11月 1日(金)	リトリート
4月12日(金)	前期授業開始	11月 2日(土)	後期授業開始
5月23日(木)	祈りの日	11月 9日(土)	オープンデイ
6月 4日(火)～6月 5日(水)	特別講義	11月20日(水)	祈りの日
6月22日(土)～6月28日(金)	集中講義	11月30日(土)	賛美礼拝
6月29日(土)	聖書神学舎デイ	12月19日(木)～1月 8日(水)	クリスマス調整期間
6月29日(土)～8月28日(水)	夏期調整期間		
7月 1日(月)～7月 3日(水)	夏期研修講座		
7月中旬～	キャラバン伝道		
7月24日(水)～7月26日(金)	教会音楽夏期講習会		
9月 3日(火)	前期授業再開		
10月18日(金)	前期授業終了		
10月19日(土)～11月 1日(金)	秋期調整期間		

2025

1月 9日(木)	後期授業再開
2月10日(月)	入学試験
2月11日(火)	信教の自由を守る日
3月13日(木)	卒論発表会
3月15日(土)	後期授業終了
3月17日(月)	第66回卒業式